

コレクター・プライズ結果発表

ART BASE 88(宮本初音) [ART BASE 88(宮本初音) 賞]

伊波 リンダ

沖縄の衣と白人女性の笑顔。この写真の中にいろんな文化がとけあうのを感じられます。

カタルシスの岸辺

インスタレーションや射的実演の祭りがよかった。死蔵映像をいかすアイデアもおもしろかった。いっぱい当たって嬉しかったです。

Art Collectors' [Art Collectors' 賞]

荻野 由梨 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

今回、3331 ART FAIR 2021で同時開催された、ファースト・パトロネージュ・プログラムより選出しました。現代美術と現代工芸と一緒に鑑賞することで、現代工芸が魅力的に目につりました。荻野由梨さんは、布のひだを集積したような表現に他にない独自性があります。大作のその持ち味を活かした花器を手元に置くことにしました。

DJ KaceK (けいすけ) [KaceK 賞]

甲斐 千香子 (Gallery TK2)

西洋のミニアチュールを
思わせる画面には、
日本人の深層心理に刻まれた
「とある船」が、描かれている。
一方で、そこには
「あの神々」は、不在である。

船に満載された品々は、
図鑑の様に詳細であり
寿ぐようなめでたさはあるものの、
標題の通り、あの船、
七福神の宝船とは
微妙に違うようなのだ。

プロフィールに曰く、
幼少時に修めた記憶術では、
「無関係なものを組み合わせで
発想することに魅了された」
これは、シュールレアリスムを
想起させる。

ダークネスや時に毒とも称賛され、
日常などに潜む「おかしさ」
がテーマと本人も記す
甲斐千香子の不思議な魅力は
いつも鑑賞者の深層心理に、
絶妙な違和感を惹起させるが、

それもこれも、作家の作品背景に
シュールリアリストとして、
いつも無意識というイメージーションが、揺蕩っているからこそ
かも知れない。

神々なき現代日本。
絢爛たる消費社会を我々は
漂流している。
その来し方と行く末を、
毎年元旦に、この作品と
思惟をめぐらすのも良いだろう。

案外、その羅針盤は無意識の中に
まどろんでいるのかも知れない。

葛西 由香 (ギャラリー門馬)

血で血ならぬ、チョコレートでチョコレートを洗う！
明治製菓の人気商品に材をとり、きのこ、たけのこ達が鎌倉時代の襖絵で合戦を繰り広げるといふ、「明治物語」
札幌からの火の手は、SNSを中心に瞬く間に日本全国の話題をさらい、この作品が葛西由香という作家の卒業制作と分かると、その才能に誰もが驚愕した。

それ以来、アニミズムの視点から、
森羅万象を古来の美意識で描き続け、着々とキャリアを重ねる作家のモチーフは、日々の日常。誰も視界に入っているはずの現代日本の一瞬が、作家の画面に映しとられると、とたんに、紛れもない日本画として、芸術に昇華するのだ。

キモノ、フジヤマでない、こんな普通、素顔の日本が芸術作品となる。
いや、芸術になし得る葛西由香を、
世界が発見する日。

その時、クールジャパンなどと言った
無駄遣い、遠回りをせずとも、
日本人が、いかに、日々を平和に
生きようと心から願っているのかを
世界は発見し、感動し、心から
共感してくれるに違いない。

誰もやらないなら、わたしがバーゼルに持って行く。(本気)

市川 友章 (√K Contemporary)

ウルトラQのタイトルの、渦巻に巻き取られた怪獣第一世代の私にとって、
怪獣というモチーフは惹きつけられてやまないアイコンなのだが、
市川友章にとって、その想いは、
更に深いようだ。

それぞれにとって居心地の良い世界でまどろんでいるうちに、
僕たちはいつしか怪人になってしまったのかもしれない。
(作家プロフィールから一部引用)

あの大震災に遭遇し、もがき、
そして、超克してきた市川友章にとって、怪人は、甘い感傷に氷たるに、
とどまらず、まさに、現代日本人の
ありのままの姿の幻視となっている。

とは言え、そのような社会学的、イデオロギー的観照を経ずとも、やはり、市川の怪人達は、その超絶的迫真の画面の中で、恐ろしくも、愛らしい。

だからこそ、既に、出版、テレビといったマスコミからサブカルチャーまでひろく、
その人気を確立していることも
納得ではあるが、

やはり、作品となればその一枚の絵の前に立ち、その奥深く画家の痛切な慟哭が
聴こえてるまで、立ち尽くすこと。

そして、芸術の持つ
人生を生きていく力、勇気を、

いまだ、テクノロジーの成しえない無尽蔵のエネルギーの様に受け止めること。

そうであるからこそ、我々鑑賞者は、
市川友章の怪人達から
今日たった一日を生き延びる
という希望の物語を、その啓示を、
知らず知らず読み取っているのだろう。